平成３０年　９月２６日

保護者の皆様

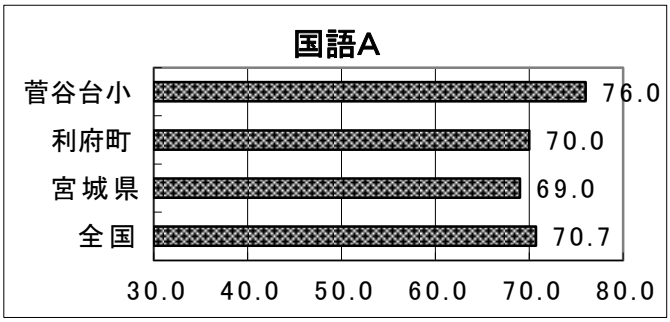
利府町立菅谷台小学校
校長　内海　喜久子

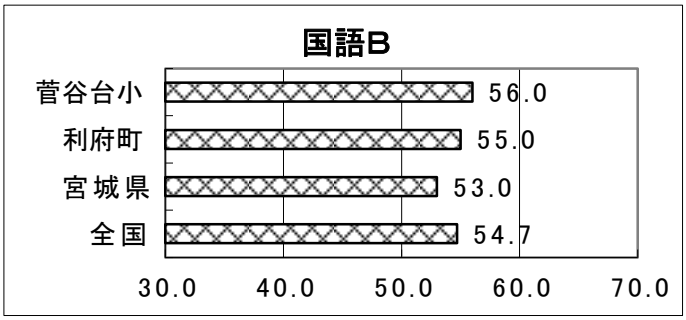
平成３０年度　全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

今年の４月１７日（火）に，全国の公立小学校に通う６年生を対象に，「全国学力・学習状況調査」が行われ，その結果が各校(７月下旬)に届きました。これに基づいて，この度，本校児童の学習や生活状況についてのよさや課題をまとめましたので，お知らせいたします。

１　学力調査の結果

【国　語】（国語 A：主に知識に関する問題　　国語 B：主に活用に関する問題）　平均正答率％



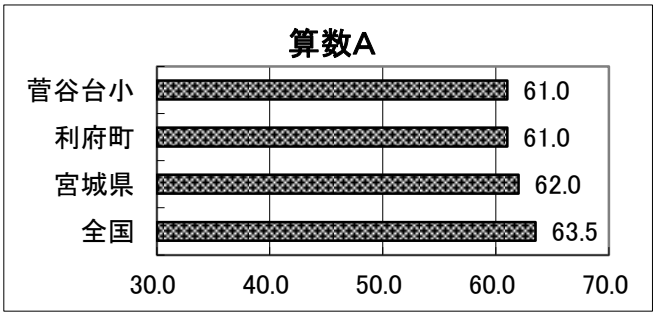


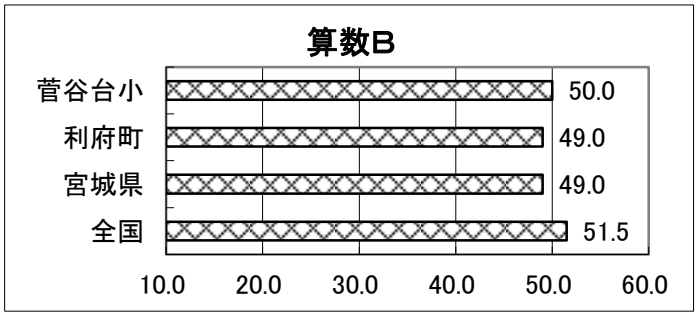
国語 A（主に知識に関する問題）については，全国平均を 5.3 ポイント上回っており，基礎・基本が確実に身に付いていることが分かります。国語 B（主に活用に関する問題）についても，全国平均を 1.3 ポイント上回っており，基礎・基本に併せて，活用力もおおむね身に付いていることが分かります。

◎　よくできていた点　　●　課題としてあげられる点

◎目的に応じて，文章の内容を的確に押さえ，自分の考えを明確にして読む問題の正答率が高くなっていました。
◎学年漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正答率が高くなっていました。
●話の内容や文章の内容を理解し，中心を明確にして書く問題に課題が見られました。
●決められた文字数で文章を書く問題に課題が見られました。

【算　数】（算数 A：主に知識に関する問題　　算数 B：主に活用に関する問題）　平均正答率％



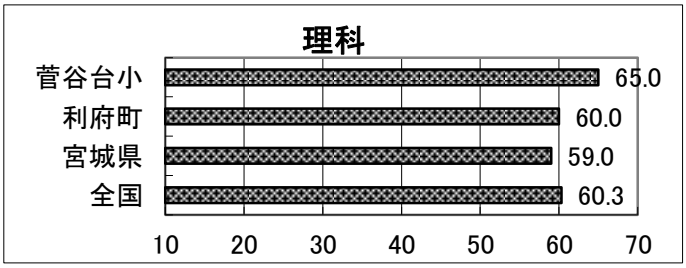


算数 A（主に知識に関する問題）については，全国平均を 2.5 ポイント下回っており，基礎・基本の定着が十分でないことが分かります。算数 B（主に活用に関する問題）についても，全国平均を 1.5 ポイント下回る結果となりました。活用力については昨年度と比べて若干改善されていますが，十分とはいえません。

◎　よくできていた点　　●　課題としてあげられる点

◎１８０度の角度を求める問題の正答率が高くなっていました。
●計算問題を解く力が十分身に付いておらず，特に小数のわり算や１単位あたりの量を求める問題に課題が見られました。
●論理的に考察したことを，式に用いて表現する問題に課題が見られました。
●グラフの特徴をもとに，複数の観点で考察したり，判断したりする問題に課題が見られました。

【理科】　平均正答率％



理科については，全国平均を 4.7 ポイント上回っています。
「物質」「エネルギー」「生命」「地球」の全項目で平均正答率を上回っており，理科の学習に関しては着実に身に付いてきていることが分かります。

◎人の腕が曲がるしくみについての科学的な言葉や概念を理解する問題の正答率が高くなっていました。
◎川の上流側の天気と下流側の水位の関係について考える問題の正答率が高くなっていました。
●実験から起こった結果を決められた言葉をつかって分かるように述べる問題に課題が見られました。

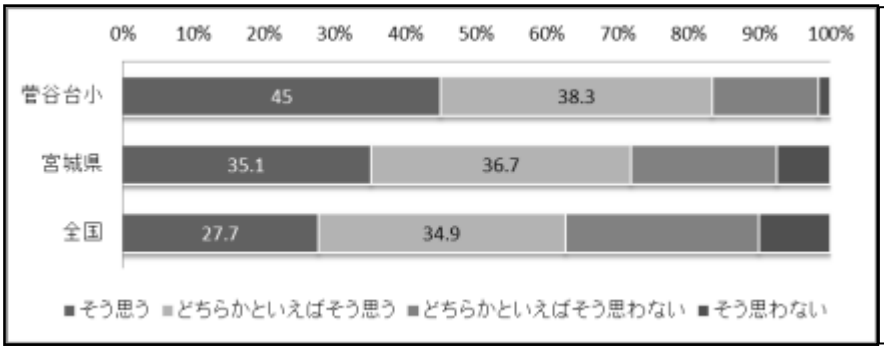
２　今後の取組について

（１）国語
○　文章を読む際に，主語と述語を常に意識させ，文法の練習問題に取り組ませていきます。その中で，目的に応じて，文章の内容を的確に抑えさせながら読めるようにしていきます。
○　国語科を中心としたすべての学習において，自分の考えや学習感想をノートに書いたり，指定する文字数にまとめて書いたりするような学習活動を取り入れ，表現力を高めていきます。
（２）算数
○　のびのびタイムを活用し，四則計算が混じった問題について補充的な学習を行いながら，一人一人の基礎的な計算能力の伸長を図ります。
○　授業の中で課題に対する自分の考えを順序よく話したり，友達の発表から分かったことを説明したりする活動に取り組ませていきます。その中で，説明に使用した言葉や式，グラフなどの意味について問うことで，筋道を立てて考える力やその考えを説明する力を高めていきます。
（３）理科
○　観察や実験の機会を増やし，正しい観察や実験の方法を学習させます。その中で実験や観察の結果を分析し，考察させて科学的な言葉を用いてまとめる学習を増やしていきます。

３　学習状況調査の結果

（１）よい傾向が見られる項目（数値は％ですが，項目によってＣ，Ｄ評価の数値表記を省略しているものがあります。）

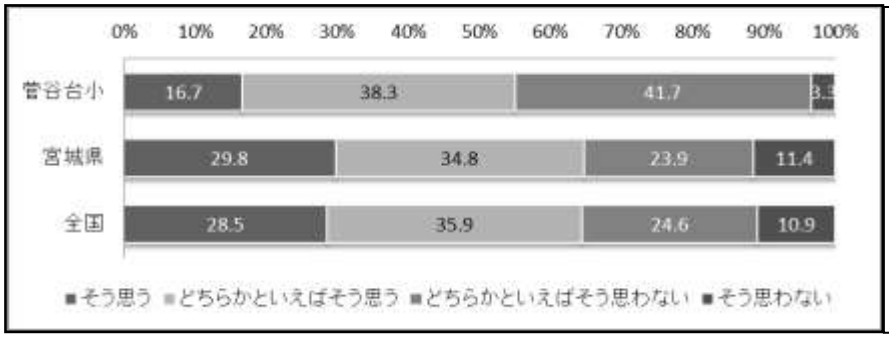
質問項目「家で，学校の授業の予習・復習をしていますか」



全国平均に比べ，「そう思う」と回答している児童の割合が 17.3 ポイント高くなっています。これまでの取組を通して，家庭学習の習慣がしっかりと身に付いていることが分かります。引き続き，ご家庭のご協力を得ながら，家庭学習の充実を図り，「学年×１０分以上」を定着させていきます。

（２）改善が必要と思われる項目

質問項目「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」



全国平均と比べ，「そう思う」と回答している児童の割合が 11.8 ポイント低くなっています。算数で学習したことを使って解決できるような問題を提示し，普段の生活の中で活用できることが意識できる授業づくりをしていきます。算数の学習の必要性を伝えていきます。